

# 徒然なるままに…38

— 今だから…子どもが学び合うために —



平成27年10月2日  
白鳥小学校 研修部

一つずつの台風とともに涼しさが増し、秋が深まろうとしています。気温が安定しないためもあり、先生方、体調など崩されてはいませんか。

気が付けば、もう10月です。×デーは、まだまだ先と思っていましたが、いよいよきました。掲示の準備が始まったり、本単元に入ったりしている学年もあるようです。ありがとうございます。

さて、今回は、あらためて、子どもの意見交流、学び合いのための手立てについてお話ししたいと思います。先日来の研修を受けて、学年別授業研究会の協議についてまとめたいとも思ったのですが、あと1か月、子どもの学び合う姿を仕上げたいと思ったからです。また、今回の話は、今まで繰り返しお話ししてきたことですし、先生方が日々されていることかもしれません。ここで、今一度子どもとの学び合いのある授業を振り返る機会になればと思うばかりです。よかったら、お付き合いください。

9月25日に、市教育センターの川口指導主事が来校され、3年生の授業を視察されました。今回の授業は、単元「わたしたちのくらしと商店」において、スーパーマーケットがあるにもかかわらず、個人商店に客がいくわけを、「接客」に着目して考える授業でした。地域にあるニシダフルーツの西田さんをお招きしてのこの授業は、白島ではお馴染みの授業となりましたね。

3年生の先生方の授業には、学び合いのある授業づくりを意図して、いくつもの手立てがありました。これは、今回だけ、社会科だけではなく、日々の授業で積み重ねられてきたことだと思います。



まず、子ども同士の対話を促す手立てです。

一つ目は、**指名や呼び掛けに対して、返事を促す**ことです。5年生の子どもも話していましたが、橋本先生は、「反応しろ。」と、口癖のようにおっしゃいます。これは、一つ一つの発言された考えを積み重ね、行く行くは、練り上げていくのが学び合いであることを習慣と意識で養うことになると考えられます。

二つ目は、**発言や発問、働き掛けに対して、リアクションを促す**ことです。リアクションとは、「なるほど。」「～がよく分からない。」「同じです。」「～がちょっと違う。」などというように、他の発言や考えに対して、どう感じ、考えたかを表すことです。これを繰り返すことによって、相互に発言やつぶやきを聞き合うとともに、それぞれの意見をもとに、自分の考えを修正、強化したり、全体の思考をつないだりすることになると考えられます。

これら二つは、先日の全体研究日で校長先生もおっしゃっていた、分かり合い、認め合う学級集団づくりにつながると考えられます。互いの発言や考えを受け入れ、存在を大切に育む素地を育てることになると考えられます。

次に、子どもの発言を引き出し、広げる手立てです。

一つ目は、**どんな発言をするかを意思表示した発言を促す**ことです。これは、発言する際、それまで出された意見に対して、どのように発言をつなぐかを考えることとなります。これには、3点のよさがあると考えられます。

1点目は、互いの意見を聞き、理解しようとするようになることです。

2点目は、他の表現や別の見方で考えたり、反論したりして、子どもら自身が思考を広げたり、深めたりすることができることです。

3点目は、話し合いや協議の論点をとらえ、それを進めるために必要な発言を考えるようになることです。

これら3点は、子ども相互に、示されたデータ・事実を分析・解釈しながら、問いについて探究する、子どもの主体的な思考活動を展開することを目指していると考えられます。その活動を通して、まさに、思考・判断・表現する力を付けることにつながると考えられます。

二つ目は、子どもの発言を問い直したり、引き出したりすることです。「ということは、どういうこと。」「結局、どういえることになる。」などというように、丁寧に、ある意味、しつこく追い込むことです。これによって、子どもの発言自体やいくつかの発言をつないで考える(類比・因果・関連させる)よう促し、そこから見えてくること、いえることへと、認識を詳しくしたり、広げたり、意味付けるなどして深めるすることを促すことになると考えられます。こうして教師が問い直すことによって、子どもらに、発言をつなげ、思考を練り上げるために着目すべき点や練り上げるための発言のモデルを示すことになると考えられます。

3年生の先生方が取り組んでおられるこれらは、結局、子どもの主体的な学びとこの深化を目指しているのです。様々な問題や課題を見つけたとき、どう考え、みんなとどう考えを練り上げて、大人や一部の人ではなく、自らが探究・解決していく主体者としての意識と力を育てることにつながるのだと思います。

しかし、これら一つ一つの習慣化・意識化は、一朝一夕には、いきません。また、子どもに丸投げにしているも、子どもに学び方として身に付けさせることもできません。まず、授業を創るという意識を共有し続けるとともに、授業者が自らの学び合う授業像を持ち、それが実現するための考え方や発言の仕方を引き出したり、モデルを示したりしていく、子どもの授業力の訓練が必要なのだと思います。

全国大会当日まで、いよいよ、あと1か月に迫ってきました。後は、今まで積み重ねてきたことをいかに実現し、発信するかを平常心で考えながら、着実に進めていくことが何よりだと思っています。しかし、まだまだできることはあるはず。もう1か月しかないからと諦めず、甘んじず、取り組んでいただければと思います。きっと、その意気が子どもに伝わり、活気のある授業にしようとするのではないのでしょうか。

いつも言っていることですが、互いに授業を見合いましょう。子どもと先生方の発言のつなげ方や思考の練り上げ方といった学び合いの様子についてコメントし合い、互いの授業を客観的に見る手掛かりとなるはず。必ずです。

